



東日本大震災における

赤い羽根の災害時支援

～みなさまの支援のおかげでできたこと～



社会福祉法人 中央共同募金会

東日本大震災における 赤い羽根の災害時支援

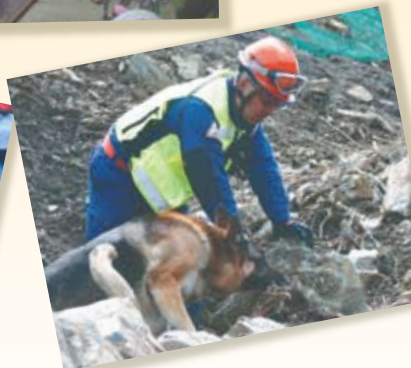
～みなさまの支援のおかげでできたこと～

東日本大震災	4
会長メッセージ	5
赤い羽根共同募金	6
共同募金会による被災地支援	8
被災された方を支える災害ボランティアセンター	10
被災地の復興に向けた地域福祉活動	12
支える人を支える募金	14
被災された方の生活支援	18
寄付金の流れ	20
寄付金の税制優遇	21
海外からの支援	22
中央共同募金会	23

〈表紙と目次ページの写真〉

赤い羽根の「災害等準備金」「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」による助成を受けた災害ボランティアセンターや団体などからお寄せいただきました。





東日本大震災

平成23(2011)年3月11日、午後2時46分。わが国における観測史上最大規模のマグニチュード9.0の大地震と、それに伴う津波が東日本を襲い、2万人近い人々の命が失われました。

この大津波は、車や家、学校、病院などを一瞬のうちに押し流しました。

数万人の人々が、愛する家族、子ども、両親、恋人、友人を、生活や大切な思い出とともに失いました。

死者	15,846人
行方不明者	3,317人
全壊家屋	128,558戸
半壊家屋	243,486戸
一部損壊家屋	673,397戸

※平成24(2012)年2月7日現在



平成23(2011)年3月11日、三陸沖を震源にマグニチュード9.0という極めて大きな地震とこれに伴う大津波が発生し、東北地方に壊滅的な被害をもたらしました。さらに、地震と津波による被害を受けた原子力発電所において深刻な原子力事故が発生し、正に未曾有の大災害となりました。

犠牲になられた方々に哀悼の誠を捧げますとともに、被災されました皆さまに、心よりのお見舞いを申し上げます。

共同募金会ではいち早く、被災された皆さまの生活支援のための義援金の募集及び被災地での支援活動を行う団体に資金援助を行うための募金などについて呼びかけをしてまいりました。

皆さまの善意は、国内外の多くの方々からのかつてない多大なご支援となって積み上げていただいております。心より御礼申し上げます。

私ども共同募金関係者一同、一日も早く、被災地が復興するとともに、被災された皆さまに安心した生活が戻るよう全力を挙げてまいります。ここに中間的なご報告を申し上げますとともに、引き続き、皆さまの暖かいご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



中央共同募金会

会長 斎藤 十朗

赤い羽根共同募金



赤い羽根共同募金は、昭和22(1947)年に、市民が主体の取り組みとしてスタートしました。当初は、戦後復興の一助として、戦争の打撃を受けた福祉施設を中心に資金支援をする活動として機能を果たしてきました。

そして65年以上たった今、社会が大きく変化する中で、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を支援する仕組みとして、また、市民のやさしさや思いやりを届ける市民主体の運動として、共同募金は展開されています。

赤い羽根共同募金は、市民自らの活動を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」です。

共同募金運動は、年間200万人といわれるボランティアにより支えられています。全国各地で、自治会・町内会、民生・児童委員、企業や学校関係者により、多様な募金運動が展開されています。

赤い羽根共同募金は、地域のボランティアグループ、NPO、社会福祉協議会、民間の社会福祉施設などが行うさまざまな地域福祉活動に役立てられています。助成先は、全国で年間6万件以上。例えば、次のような活動に助成されています。

- ひとり暮らしの高齢者の生活を支援する活動
- 障がいのある方が地域で安心して暮らすための活動
- 子育てで悩んでいる親たちの相談・支援活動
- ひきこもりがちな方や社会的に孤立している方を支援する活動
- 地域みんなが「安心・安全」に暮らすための活動 など



小学生の高齢者疑似体験(群馬県)



障がい者スポーツ活動(新潟県)



ドメスティック・バイオレンス防止啓発活動(鳥取県)

共同募金会による被災者支援



概 略

被災された方を支える
災害ボランティアセンター
～災害等準備金～

被災地で、被災された方とボランティアをつなぐ災害ボランティアセンターの運営支援や、福祉施設の復旧支援等を行っています。

www.akaihane.or.jp/er/junbikin.html

支 援 先

災害ボランティアセンター、
被災福祉施設等

被災地の復興に向けた
地域福祉活動
～赤い羽根共同募金～

赤い羽根共同募金を通じて、復興に向かう被災地の地域福祉活動を支援しています。

www.akaihane.or.jp/furusapo/

被災地域で福祉活動を行う団体

▶ P.10

▶ P.12



支える人を支える募金
～災害ボランティア・
NPO活動サポート募金～

被災地等で被災された方への支援
活動を行うボランティアグループや
NPO等を支援しています。

www.akaihane.or.jp/er/p3.html

ボランティアグループ、NPO等

▶ P.14



被災された方の生活支援
～災害義援金～

被災された方へのお見舞金として、
自治体を通じて届けています。

www.akaihane.or.jp/er/p2.html

被災された方個人

▶ P.18



災害ボランティア活動
支援プロジェクト会議

事務局：中央共同募金会

災害ボランティアセンターへの
人材派遣、拠点設置、資器材の提
供など、運営支援をしています。

www.shien-p-saigai.org/

災害ボランティアセンター

引き続き、ご寄付を受け付けています。各支援活動への資金支援の方法は、p.20をご覧ください。

被災された方を支える災害ボランティアセンター ～災害等準備金～



共同募金会では、災害時に被災地でのボランティア活動を支援するために、赤い羽根共同募金の3%を「災害等準備金」として積み立てています。

東日本大震災では、東北被災3県を中心に100か所以上の災害ボランティアセンター（以下、「災害VC」という。）^(※1)が立ち上がり、共同募金会では「災害等準備金」により約100か所の災害VCに対して、活動資金として総額6億8千万円^(※2)の助成を行ってきました。共同募金会では、今後も災害VCへの助成を継続し、息の長い被災者支援を続けていきます。

www.akaihane.or.jp/er/junbikin.html

(※1) 災害VCの機能

●連絡調整:被災状況の把握と行政や関係機関などとの連絡調整、さまざまな支援活動・支援への資源などの調整 ●広報:被災された方への支援活動やセンターの存在の告知、ボランティア募集、マスコミ対応、活動状況の記録・発信 ●被災された方のニーズへの対応:ニーズの受付・相談、潜在ニーズの発掘、ボランティアの活動調整、専門機関へのつなぎ ●ボランティアのマネジメント:円滑なボランティア活動への配慮、ボランティアの安全・健康管理

※発災後、被災地に災害VCが設置される動きが定着化しています。災害VCの多くは、社会福祉協議会（以下、「社協」という。）やNPOなど民間の活動団体等が主体になって運営されています。

(※2) 平成24(2012)年1月31日現在

釜石市災害VC(岩手県釜石市)

津波が防波堤を乗り越えて間もなく、大きな音とともに市社協の事務所玄関に黒い水が流れ込み、1分もかからずに1階の天井付近に達しました。

災害発生から3日後、市社協が中心となって市役所の一室を借りて災害VCを立ち上げましたが、数多くのボランティアを受け入れるには手狭だったため、別途プレハブを設置しました。釜石市災害VCには、「災害等準備金」からこれまでに900万円が助成され、プレハブの賃貸費、車両リース料、ボランティア活動用品費などに充てられています。

松島町災害VC(宮城県松島町)

3月15日、電気も水もない中、災害VCが町施設の一角を借りて設置されました。コピー機やパソコンなどの事務機器、ボランティアが活動場所に向かうための車両など、すべてを一から揃えなければならず、これらの費用として「災害等準備金」593万円が助成されました。

担当者は、「災害VCは、運営費等の資金面で常に不安定な状況にあります。早く共同募金会からの助成があり、寄付者の皆さまの温かな思いを考えると、スタッフ皆が勇気づけられました。」と話しています。

田村市災害VC(福島県田村市)

田村市では、最も多い時で9千人弱の原発事故等による避難者を受け入れました。

避難者の不安が募る中、市社協に災害VCが設置され、ボランティアの派遣、避難者の支援、物資の提供などのため、「災害等準備金」から150万円の助成が行われました。災害VCのスタッフの方々は、警戒区域から避難してきている住民の方々の「いつ帰れるかわからないけれど、ボランティアのみなさんに支えられて、こうして元気でいられる。助かるよ。」という声を励みに活動しています。



釜石市災害VCの外観



ボランティア活動前の打ち合わせの様子



避難先子どもたちへのボランティア活動

被災された方を支える
災害VC「災害等準備金」

被災地の復興に向けた
地域福祉活動

支える人を支える募金
「ボラサポ」

被災された方の生活支援
「災害義援金」

被災地の復興に向けた地域福祉活動 ～赤い羽根共同募金～



赤い羽根共同募金は、じぶんたちの町を良くするための募金です。

募金の多くは、募金が集まった市区町村ごとに、その町を良くする活動に使われています。

共同募金会では、じぶんのふるさとなど、都道府県と市区町村を選んで応援することができる「ふるさとサポート募金（通称：ふるサポ）」に取り組んでいます。

岩手・宮城・福島3県へのご寄付は、被災された方の生活再建を手助けする活動のために使われます。

「ふるサポ」にはパソコンや携帯電話からも気軽にご寄付いただけます。

www.akaihane.or.jp/furusapo/

共同募金の助成は、台風等による風水害や地震災害への防災・減災活動にも役立てられています。日頃から、地域住民を対象とした防災訓練、家具転倒防止活動、災害ボランティア研修等も多く実施されており、こうした訓練活動や災害対応拠点整備事業への助成も増えています。

東日本大震災の被災地では、仮設住宅等での避難生活を余儀なくされている方々の見守りや孤立防止、仮設住宅でのサロン活動などの交流事業、震災によって分断されてしまったご近所の交流活動など、被災者支援のためのさまざまな地域福祉活動が求められています。

復興には長い月日がかかることが予想され、息の長い支援が必要です。



支える人を支える募金 ～災害ボランティア・NPO活動サポート募金～



大震災発生直後の3月15日、東日本大震災の被災地等で活動するボランティアグループやNPOの活動を支援するため、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金（以下、ボラサポ）」を創設しました。

平成24（2012）年1月までにお寄せいただいたご寄付は31億円を超え、5月から5回にわたってのべ1,247団体に約15億6千万円を助成してきました。

寄付者の皆さまからお預かりした貴重な財源とその思いを活動する団体につなぎ、団体の活動を柔軟に支援することを通じて、被災された方々を支えていきます。

www.akaihane.or.jp/er/p3.html



ボラサポ公式 Facebook ページへアクセス 耳より情報 毎日更新

www.facebook.com/borasapo/

ボラサポの助成概要

多くの団体にとって使いやすいしくみとなるよう、柔軟な対応を心がけています。

	短期活動	中長期活動
活動日数	30日未満	30日以上
上限金額	50万円以内	300万円以内
対象の団体	5人以上の非営利団体、グループ	
対象の活動	終了した活動	終了した活動・今後の活動
活動の種類	炊き出し、がれき撤去、サロン活動、子どもの学習支援、コミュニティFMによる情報提供、ボランティアバスの運行など	
対象の経費	物品費、通信費、交通費、印刷費、専門的なコーディネートを行う人材の人件費など	
特長	被災地のニーズの変化に合わせた“2ヵ月に1度”の助成サイクル(平成24年3月から3ヶ月に1度)／昨日立ち上げたばかりの団体でも応募できる条件の広さなど	
ステップアップ	一定の条件を満たした団体は、1回に1千万円まで応募可能 ※詳しくは応募要項にて	

※当初の予定から2年間延長し、平成27(2015)年3月まで助成を行います。

被災地で活動する団体の声



被災地で自ら活動する団体のみなさん

徐々に、被災地に住む人たちからの応募が増えてきました。活動する人たちからは、こんな声が聞こえています。

「自分たちのまちづくりは、自分たちで考えていきたい」
「私たち地域の大人が、地域の子どもたちの成長に関わっていこうと呼びかけていきたいと思います。被災して、たくさんの人に支えられました。すべての人に直接お礼を伝えられないけれど、今は私たちが元気に前向きに生きていくことでお礼になるのかなと思っています」

寄付という多くの人の思いのつまったボラサポの助成を受けることで、一步を踏み出した人たちがたくさん生まれています。

ボラサポのこれから

発災当時から、応募内容には変化が見られました。炊き出しや泥かきの活動は少なくなり、仮設住宅のコミュニティづくりのための活動や、子どもたちへの支援活動などが多くなりました。発災から間もなく1年となりますが、まだまだ泥かきが必要な地域があるなど、同じ被災地域であっても場所によって状況は様々です。また「阪神・淡路大震災での支援を見ると、子どもたちの問題はこれから表面に出てくるはず」と考え、これからの活動こそが必要とされているという団体の声もありました。

ボラサポは、被災地で必要とされる活動をきちんと受け止め、分野や地域を問わずに助成を続けていきます。



子どもへの学習支援の様子



1日の泥かき活動を終えてボランティアセンターに戻ってきたみなさん(11月)



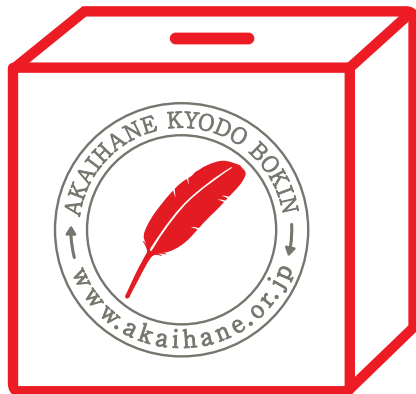
被災された方を支える
災害V.C.災害等準備金

被災地の復興に向けた
地域福祉活動

支える人を支える募金
ボラサポ

被災された方の生活支援
災害義援金

被災された方の生活支援 ～災害義援金～



被災された方に対して生活再建のためのお見舞金を給付する災害義援金。

中央共同募金会は、地震発生直後の3月14日から「全国災害たすけあい」として義援金の募集を開始し、国内外の個人や企業・団体から、平成24(2012)年1月までに、389億円^(*)のご寄付が寄せられました。

「全国災害たすけあい」義援金は、ご寄付いただいた全額が、被災の程度に応じて、世帯単位で被災された方に公平に配分され、それぞれの暮らしを立てなおすために、役立てられています。

(*) 38,930,741,294円 平成24年1月31日現在。

www.akaihane.or.jp/er/p2.html

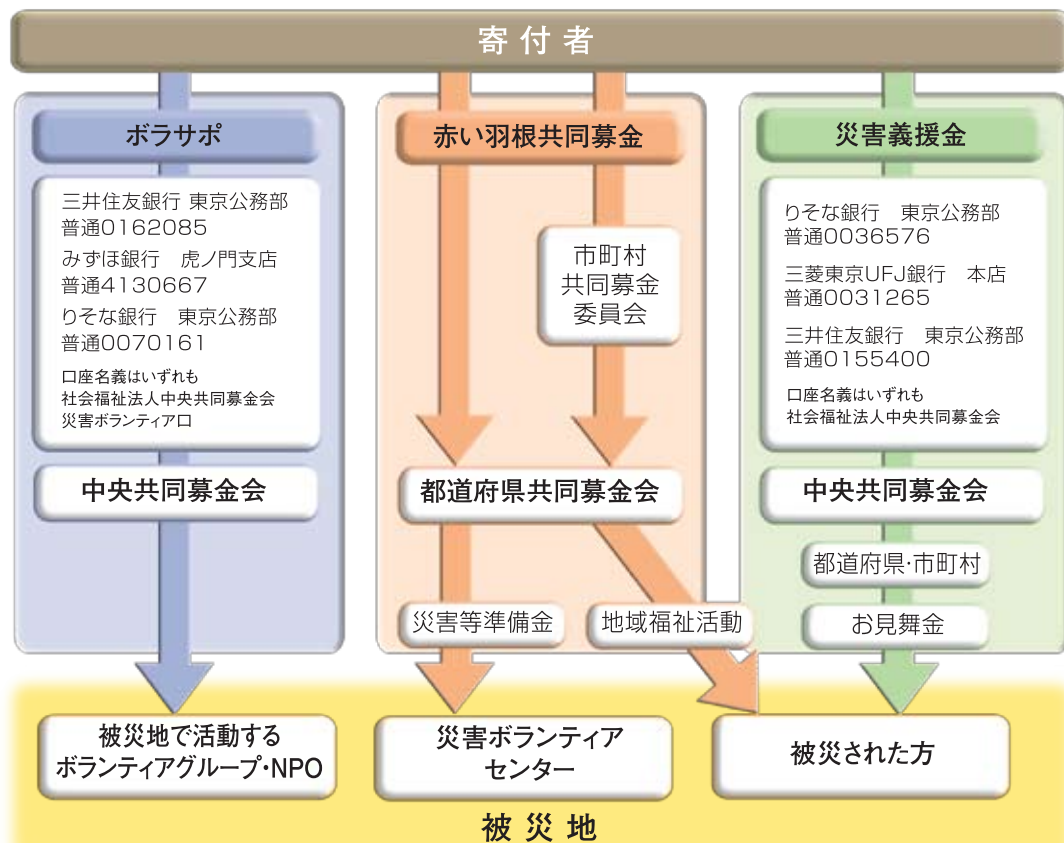
義援金は、中央共同募金会等義援金受付団体から被災都道府県へ、都道府県から被災市町村に順に送金され、被災された方に対しては、市町村が責任をもってお配りしています。平成24年1月現在、受け付けた金額の約80%が被災された方のお手元に届いています(*)。



(*)厚生労働省資料「義援金送金状況(平成24(2012)年1月20日)」によります。



寄付金の流れ



※振込手数料等について詳しくは、中央共同募金会ホームページをご覧ください。

海外からの支援

東日本大震災の被災者支援には、海外からも多くの善意が寄せられました。

中央共同募金会には、韓国、台湾、アメリカをはじめとした各国から総額10億円を超える寄付が届き、災害義援金、災害ボランティア・NPO活動サポート募金、そして長期的な復興支援のための活動資金として、被災地で役立てています。

〈主な寄付団体〉



韓国共同募金会
(Community Chest of Korea)



台湾共同募金会
(United Way of Taiwan)



ユナイテッドウェイ・
ワールドワイド
(United Way Worldwide)



平成23年の年末には、韓国共同募金会、台湾共同募金会からの寄付金により、仮設住宅等での避難生活を余儀なくされている要援助者にお餅や年越しそばなどを配布する支援活動を実施しました。



赤い羽根共同募金

社会福祉法人 中央共同募金会

社会福祉法人中央共同募金会は、全国47都道府県共同募金会の連合体で、赤い羽根をシンボルとする共同募金運動の全国的な企画、啓発宣伝、調査研究、都道府県共同募金会の支援等を行っています。

また、全国的視野により活用される寄付金や、2以上の都道府県で活用される寄付金の受入れおよび調整や、民間助成資金・公益信託などの取扱いを通して、民間福祉事業の推進に大きな役割を果たしています。

名 称	社会福祉法人中央共同募金会 Central Community Chest of Japan
所在地	〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル5階 Tel 03-3581-3846 Fax 03-3581-5755 Mail info@c.akaihane.or.jp
役 員	会 長 斎藤十朗 副会長 小林和弘 田中 正 乾 繁夫 常務理事 中島謙次
主な事業	共同募金の推進・普及、共同募金の広報、企業等の社会貢献活動との連携、ボランティア活動の推進、社会福祉の推進、各種助成事業への協力、NHK歳末たけすあい、災害救援、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議 事務局
ホームページ	www.akaihane.or.jp

東日本大震災における

赤い羽根の災害時支援

～みなさまの支援のおかげでできたこと～

社会福祉法人 中央共同募金会

